

## 障害スコア 障害統計の方法論についての考察

榊原賢二郎

sakakibara\_kenjirou@yahoo.co.jp

平成 28 年 11 月 6 日

## 「重度性」の捉え直し

医学モデル  
障害は身体の  
「欠陥」

⇒

社会モデル  
障害は一種の  
社会的排除

⇒ 障害 – 社会的排除の重度性

社会的排除…… 社会参加可能性の剥奪

⇒ 「重度性」を測れる

cf. 不利益の集中(星加)

1 / 11

## 重度性を測る意味

差別解消法や ADA などは「事後的」

⇔ 事前的制度の必要

⇒ 各種障害の排除としての重度性を予測  
してあらかじめ対応する必要

cf. 包摂的異別処遇(榊原)

⇒ その基礎としての重度性指標

2 / 11

## 障害統計と重度性

どの程度の排除を受けるか

…… 統計で測れる

社会学的障害統計の基本問題

- 障害者の割合
- 障害の重度性

両者は相互に関連

⇔ 今回は後者に焦点

3 / 11

## 重度性の測定(1)——客観的方法

- 体の状態について質問  
(例 簡略質問群)
- 社会参加についての質問  
(就労状態のほか多様な項目が可能)
- 両者の相関関係(≠因果関係)の強さに着目
- 排除を受けやすい身体的条件  
⇒ 損傷(インペアメント)

4 / 11

## 重度性の測定(2)——主観的方法

- 人々の主観を問う  
…… どれくらい排除されそうか
- 主に排除する側の排除意識
- 何段階かの選択肢から選んでもらう  
⇒ 平均点 = 「障害スコア」
- 各種身体的条件について算出可能

5 / 11

## 障害スコアの質問文

以下の表に並んでいるのは、心や体の状態です。この中には、仕事や学校生活、結婚や家事・育児などといった社会生活で不利になるものもあります。以下の心や体の状態は、どの程度社会生活に不利になると思いますか。(⇒ 続く)

6 / 11

## 障害スコアの質問文(続き)

それぞれの状態について、「非常に不利になる」「やや不利になる」「あまり不利にならない」「まったく不利にならない」のどれか1つをお選びください。

7 / 11

## 階層研究との関係

社会学の階層研究の手法から(直井)

### 客観的方法

職業と収入などの社会的地位との関係性に焦点

### 主観的方法

職業に対する人々の主観的評価を集計  
…… 「職業威信スコア」

8 / 11

## 障害スコアの長所

- 主観的評価…… 人々のリアリティにより近いと考えられる  
例 雇用採否・結婚・出生前診断
- 小規模な調査で結論を導ける
- 多くの身体的条件を評価できる
- これまで障害とは考えられてこなかった状況も、柔軟に調査できる
- 専門家でなくても理解しやすい

9 / 11

## 障害スコアの短所

- 言葉づかいに左右される
  - 回答者にとって全くイメージがわからない身体的条件は調査できない
  - 障害者数は別途調査が必要
- ⇒ 客観的方法と組み合わせて使う必要

10 / 11

## 文献

- 小松丈晃 (2003) 『リスク論のルーマン』  
榊原賢二郎 (2016) 『社会的包摂と身体』  
直井優 (1979) 「職業的地位尺度の構成」  
花田春兆 (1991) 「ADA 法やぶにらみ」  
星加良司 (2007) 『障害とは何か』  
Barnes, Colin et al.(1999=2004), *Exploring Disability*  
Luhmann, Niklas(1995=2007), "Inklusion und Exklusion"  
Oliver, Michael(1990=2006), *The Politics of Disablement*  
Treiman, Donald J.(1977). *Occupational Prestige in Comparative Perspective*  
UN ECOSOC Statistical Commission(2006), "Report of the Washington Group on Disability Statistics"  
UPIAS and DA(1976), *Fundamental Principles of Disability*

11 / 11